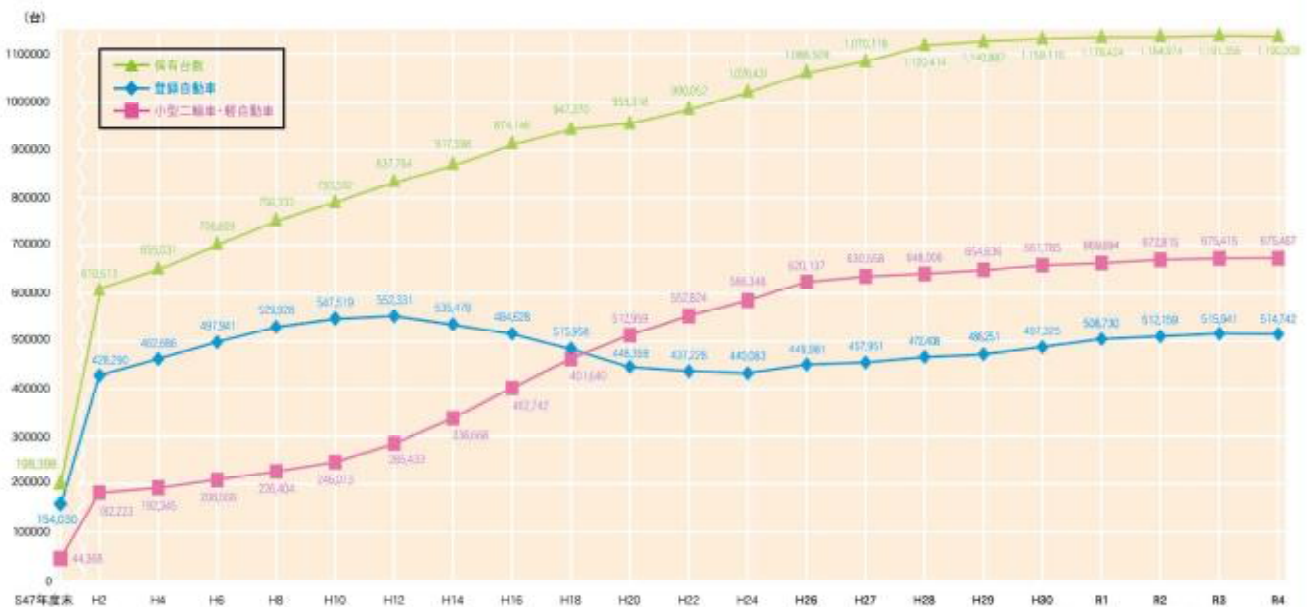


# 道路・街路・公園



南部東道路（南城市）

## ◆沖縄県内の自動車保有台数の推移



(注)：各年12月末の数値である。  
資料：沖縄県 HP 沖縄の統計（令和4年12月）

# 道 路

道路は島嶼県である本県の経済活動や県民生活を支える最も基本的な社会基盤としての役割を担っています。

南部管内においては、国際的な広域交通拠点的那覇空港、那覇港が立地するとともに、県都那覇市及びその周辺市町村へ人口や商業・業務等の諸機能の集積が進んでおり、急激な都市化の進展等都市構造の変化に伴い、道路整備の必要性は依然として高い状況にあります。

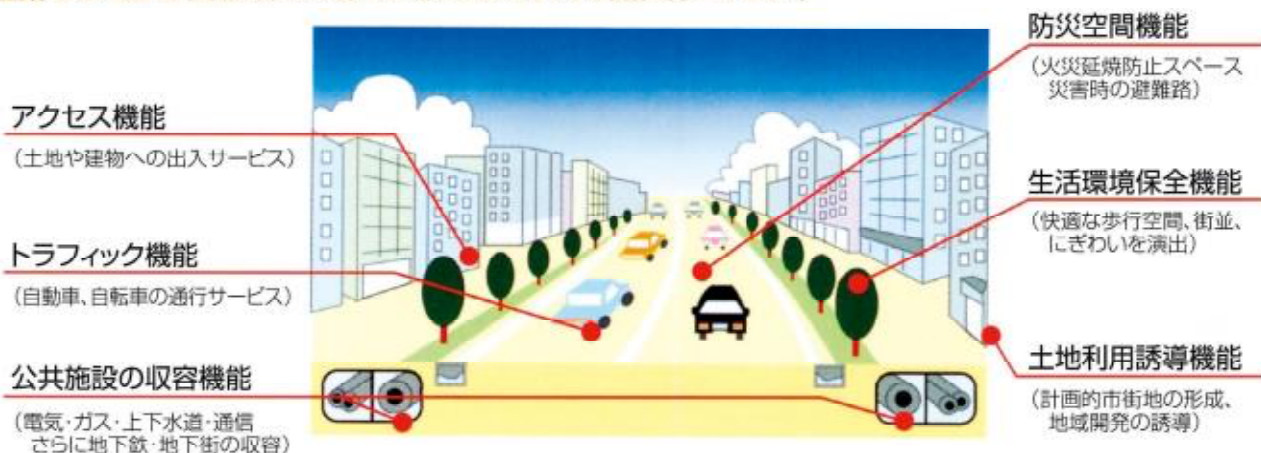
このため、当事務所では、都市部の交通渋滞の緩和をはじめ管内の市町村のアクセス機能の向上、離島地域の活性化及び沿道環境の保全や景観整備等、安全で快適なまちづくりをささえる道路整備を推進しています。

管内の道路では、県管理国道及び県道を併せて53路線あり、下表に示す10路線で整備事業を実施しています。

## ◆道路事業実施箇所一覧表

番号	道路種別	路線名	事業区間	事業延長	道路幅員(車線数)	道路規格(設計速度)	掲載ページ
①	高規格道路	南風原知念線(南部東道路)	南風原町喜屋武～南城市玉城字垣花	L=7,400m	W=8.5m(2/4車線)	第3種2級(60km/h)	P8
②	一般国道	国道507号(八重瀬道路)	八重瀬町東風平～具志碇	L=4,200m	W=30m・26.5m	第3種1級(60km/h)	P10
③	主要地方道	糸満与那原線(平和の道線)	糸満市山城～真栄里	L=7,800m	W=17-11m(2車線)	第3種3級(50km/h)	〃
		糸満与那原線(東風平～屋宜原)	八重瀬町東風平～屋宜原	L=1,040m	W=20m(2車線)	第4種2級(50km/h)	P11
④	主要地方道	奥武山米須線	糸満市須屋～米須	L=4,890m	W=25m,16m,14.5m(2車線)	第4種2級(50km/h)	〃
⑤	主要地方道	那覇北中城線(上之屋道路)	那覇市上之屋～天久	L=980m	W=16.5m(4車線)	第4種1級(40km/h)	〃
⑥	主要地方道	南風原知念線(山川～喜屋武)	南風原町山川～喜屋武	L=900m	W=10.5m×2(4車線)	第3種2級(50km/h)	P12
⑦	一般県道	宜野湾南風原線(喜屋武)	南風原町喜屋武地区	L=900m	W=28m(4車線)	第4種1級(50km/h)	〃
⑧		久米島一周線(比嘉～島尻)	久米島町謝名堂～島尻	L=1,840m	W=10-16m(2車線)	第3種3級(40km/h)	〃
⑨	一般県道	東風平豊見城線	豊見城市上田～豊崎	L=4,670m	W=30m(4車線)	第4種1級(60km/h)	P13
⑩	一般県道	豊見城糸満線	豊見城市名嘉地～糸満市兼城	L=4,500m	W=30m(4車線)	第4種1級(50km/h)	〃
⑪	一般県道	玉城那覇自転車道線	南城市玉城前川～那覇市首里	L=25,100m	W=3.5m		〃

## ◆道路のはたらき (道路は私たちの暮らしに欠かせないさまざまな機能を持っています。)





◆道路事業実施路線図



「測量法に基づく国土地理院長承認(複製) R 6JHF 144」 「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」



# 高規格道路

## 高規格道路とは？

高規格道路とは、定住自立圏や重要な拠点、空港・港湾を連絡する道路であり、拠点間の移動の時間短縮や防災・減災、国土強靱化の観点から、リダンダンシーの有効性がある路線になります。



## 高規格道路



## はえばるちねん 南風原知念線【南部東道路】



南部東道路の那覇空港自動車道取付けジャンクション部イメージ図

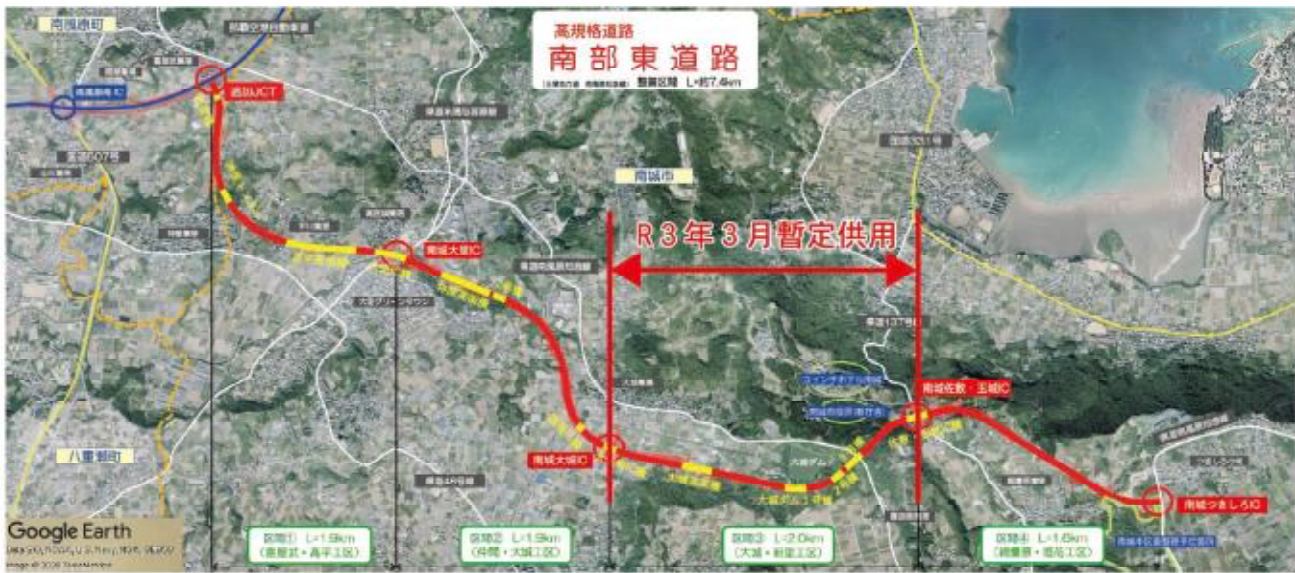


令和3年3月区間③の暫定供用開始



「測量法に基づく国土地理院長承認（承認）R 6JHf 144」  
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」





**事業概要**

事業区間：南風原町字喜屋武～南城市玉城字垣花

事業延長：L=7,400m

事業期間：2011年度～2020年代後半

道路幅員（車線数）：W=8.5m（暫定2車線）※W=16.25m（4車線）

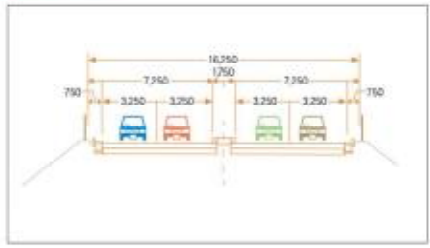
道路規格（設計速度）：第3種2級（60km/h）

総事業費（進捗率）：421.4億円※45.7%（R4末）※暫定2車線総事業費

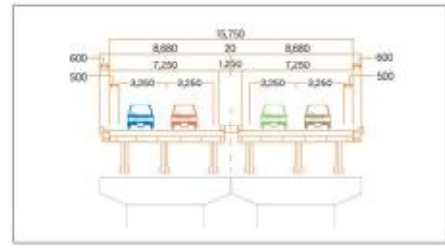
南部東道路は、南城市知念・佐敷・玉城の鳥尻東地域から大里を經由して南風原町内の那覇空港自動車道に連結する高規格道路であり、定時・定速を確保し、那覇市までの30分圏の確立を図り、地域住民に都市的サービスを提供するとともに、行動圏の拡大を図り、南部圏域の振興を支援する道路です。

令和3年3月、区間③の暫定供用を開始。

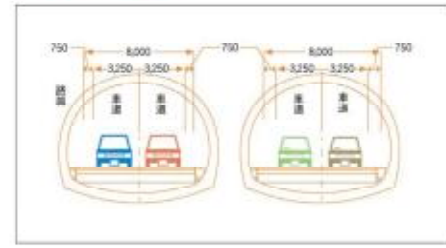
【標準部】



【橋梁部】



【トンネル部】



南部東道路の整備効果

観光振興

観光地間のアクセス向上が期待できます。例えば、斎場御嶽から首里城までピーク時で約17分の短縮が見込まれます。



医療支援

医療施設までの迅速な搬送が期待できます。例えば、南城市知念庁舎から県立南部医療センター・こども医療センターまでピーク時で約17分の短縮が見込まれます。



産業振興

混雑緩和に伴う那覇空港までの物流の効率化が期待できます。これを渋滞損失額に換算すると、その削減量は、年間約27.5億円になります。また、空港までの30分圏域の人口は、約2.1万人増加します。



沿道環境

現道の沿道環境の改善が期待できます。例えば車の排出ガスであるCO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>、SPMが年間あたりそれぞれ約4,300t、16.4t、1.5tの削減が見込まれます。

